資料　１

教育委員会の点検・評価報告書

（平成３０年度分）

令和元年 10 月

石狩市教育委員会

点検及び評価について

１　教育委員会の点検・評価報告書について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。

石狩市教育委員会（以下「市教委」という。）は、市民への説明責任を果たすとともに、より効果的に教育行政を推進するため、平成 30 年度の教育委員会の活動状況及び主要な施策・事業について点検・評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々による「石狩市教育委員会外部評価委員会」の意見を踏まえ、「教育委員会の点検・評価報告書（平成 30 年度分）」としてまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２　点検及び評価の対象について

平成 30 年度の教育委員会の活動状況のほか、教育委員会において実施した施策・事業等を対象としています。

３　点検及び評価の手法と方針について

教育委員会会議の開催及び審議の状況など、教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、教育に関する事業を個別に評価し、課題を踏まえ、今後の改善に向けた方針を明らかにしています。

４　学識経験者の知見の活用について

教育委員会の活動状況や教育に関する施策・事業の執行状況の点検・評価の客観性を確保し、今後の取組への活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方々から、点検及び評価に対する意見や助言をいただき、本報告書に付して報告します。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価

１　教育委員会の活動状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び石狩市教育委員会会議規則に基づき、教育長と４人の委員が、付議された議案・報告案件及び協議事項・報告事項について、委員相互の入念な審議・協議・意見交換などを経て決定しています。

会議（毎月の定例会）においては、従前と同様に、主要な教育施策の確立、変更及び実施に関すること、教育委員会規則の制定、その他付議された議案について審議決定するとともに、教育に関する様々な協議事項・報告事項等について、委員相互による活発な協議が行われています。

また、市民が教育行政に関心を持っていただけるよう、市ホームページや、市役所本庁舎情報公開コーナーなどで会議録を公開して、市民の理解に努めています。

なお、平成 22 年４月にスタートした石狩市教育プランは、５年の経過を節目とし、教育委員会会議において協議を重ね、平成 27 年３月に改定を行いました。

このプランに基づく施策等を着実に実施するため、様々な教育課題や具体的取組などについて、その都度協議するほか、教育現場の視察や関係者との意見交換を行っています。

教育プラン基本構想　重点テーマ２　思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育

施策（大項目）１　豊かな人間性と感性を育む教育の推進

●大項目のねらい

「確かな学力」や「健やかな体」とあわせ、「豊かな心」を育むにあたり、その出発点となる家庭の役割の重要性を市民全体でしっかり理解し、市民ぐるみの取組が進められるよう、体制の整備を進めます。

学校においても「心の教育」、「情操教育」、「豊かな感性」、「コミュニケーション能力」を育む教育活動を推進するとともに、いじめ等の問題行動・不登校などに対し、一人ひとりを大切にした支援を行う体制の充実を図ります。

また、子どもが言葉を身につけ、感性を磨き、表現力を高めるために欠くことのできない読書活動を推進するため、すべての子どもがあらゆる機会と場において、本に興味、関心を持ち、読書活動を行うことができるよう、環境の整備を図ります。

中項目１（略）

中項目２　子どもの読書活動の推進（担当：市民図書館）

指標の名称	単位	ﾌﾟﾗﾝ掲載実績	参考値				実績値	目標値
		(H25)	(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	H30	R01
学校図書館図書標準達成校数	校	小　2 中　3	小　5 中　2	小　6 中　2	小　5 中　2	小　8 中　3	小　9 中　3	全校
「読書が好き」と回答した児童生徒の割合	%	小 73.7 中 74.1	小 73.7 中 74.1	小 65.8 中 68.6	小 68.3 中 73.5	小 63.6 中 69.3	調査項目変更	78.7

分析評価・方向性　学校図書館図書標準については、文部科学省の目標冊数の算定方法が、通常学級と特別支援学級の合計学級数を基準としているため、特別支援学級が多い学校では達成が難しい傾向があり、また学級数も通常学級に比べて年度により増減しやすく、これに伴って各年度の目標冊数が変動するなど、目標達成や蔵書管理に大きく影響することから、平成 29 年度からは市教委独自の考え方として、特別支援学級での支援が必要な児童生徒数 35 人までを１学級とみなし、学級数を算定した冊数を目標と定め、図書費の増額と合わせながら達成を目指しています。また、令和２年度に開校する統合校（小学校５校、中学校２校）については、統合に向けた準備を進めており、学校図書館図書標準については、開校後の達成を目指します。

調査項目が変更されたためこれまでの「読書が好き」と回答した児童生徒の割合はを把握することはできませんが数値は減少傾向にあったことを踏まえ、学校図書館と連携しながら、本に親しむ取組を推進します。

小項目①　子どもが本に親しむための機会の提供

（本に親しむための機会の提供）（担当：市民図書館）

取組状況　乳幼児期については、「ブックスタート」「ブックスタートフォローアップ」「おはなし会」「家読（うちどく）」など、本にふれあう機会づくりに取り組んだほか、小中学生期については、自ら調べてまとめる力を育てる取組として「調べる学習コンクール」を実施しました。

事　業　名	回　数	内　　容
ブックスタート	月１回	絵本を通した親子のふれあいの機会を創出するため、10 ヶ月児健診会場において、保健師、ボランティア、図書館司書連携のもと、ボランティアが絵本の読み聞かせを行い、図書館司書が赤ちゃんと保護者の方一人ひとりに、「乳児へのことばかけ」の重要性を説明しながら絵本の入ったブックスタートパックを手渡しました。 （H30 年度のパック配付数　288 セット［H29 年度　316 セット］）
ブックスタート フォローアップ	月１回	上記のフォローアップとして１歳６ヶ月健診の会場で読み聞かせを行いました。 （H30 年度のパック配付数　19 セット［H29 年度　16 セット］）
おはなし会	全 74 回	小学校低学年の子をもつ親子での参加を想定し、市民図書館内「おはなしのたまご」を会場に、職員や読み聞かせサークル、ボランティアが読み聞かせを行いました。

		（H30 年度の参加者数 1,175 人［H29 年度 全 76 回 1,133 人］）
ＤＶＤ上映会	全 12 回	ボランティアによるＤＶＤ上映会を行いました。 （H30 年度の参加者数 149 人［H29 年度 全 12 回 188 人］）
家読（うちどく）	年１回	小学校期に向けた「第２のブックスタート」として、H27 年度から就学時健康診断会場において、図書館司書が幼児と保護者に対し、ブックリスト配付や図書館の利用方法の説明を行いました。 （H30 年度のリスト配付数 469 冊 ［H29 年度配付数 464 冊］）
調べる学習コンクール	年１回	多くの情報の中から必要な情報を選択し考えをまとめる力を育て、学ぶ力を身につけるため、市内の小中学生を対象に実施しました。 （H30 年度応募状況 小学校 12 校 83 点 中学校 2 校 262 点 ［H29 年度応募状況 小学校 12 校 320 点 中学校 3 校 164 点］） 受賞作品数：最優秀賞 5 点 優秀賞 9 点 佳作 16 点 全国コンクール受賞作品：佳作 7 点

分析評価・方向性　乳幼児期の読書活動推進については、引き続き、「ブックスタート」、「おはなし会」等を、ボランティアや読書団体の協力を得ながら行います。また、ブックスタートについて、10 ヶ月児健診時にブックスタートパックを受け取れなかった家庭に対し、１歳６ヶ月児健診会場で「ブックスタートフォローアップ」を実施しておりほとんどの家庭に配付ができていますが、配付ができなかった家庭に対する関係部局との連携などのフォローを検討します。絵本を家庭で活用していただけるように、あらためてボランティアの読み聞かせや、図書館に足を運んでいただけるようなＰＲをしています。

また、調べる学習コンクールについては、中学校の応募作品数が増加しましたが、地震等の影響からか小学校の作品数が減少しました。全国コンクールでは出品した７作品全てが佳作を受賞しました。今後も引き続き、各校に対し本事業の活用をＰＲし、子どもたちの「調べ・考え・まとめる力」を育成する機会として定着するよう継続していきます。

小項目②　学校図書館の活動の充実

（学校図書館の蔵書の充実）**（担当：市民図書館）**

取組状況　学校図書館の蔵書については、魅力があり活用される図書館になるよう、継続的な図書の購入及び、適切な廃棄を促進し、蔵書の充実を図っています。

平成 29 年度からは、学級数に応じて定められている学校図書館図書標準冊数について、市独自の考え方（※）のもと、実情に合わせた目標冊数を定め、合わせて全小中学校への図書費特別加算を行い、目標達成を目指しています。

※特別支援学級での支援が必要な児童生徒数 35 人までを１学級とみなし、全校学級数を算定。

分析評価・方向性　図書標準達成校が小学校で１校増加しました。引き続き、児童生徒にとって魅力ある図書館となるよう、図書の増冊や更新を図ります。

（学校図書館の体制整備、ネットワークを活用した読書支援）**（担当：市民図書館）**

取組状況　「学校図書館等整備方針」に基づき、地域の状況を踏まえながら、平成 21 年度より学校司書配置・派遣による人的体制整備を進めてきましたが、平成 28 年度の小規模小学校５校（石狩小、生振小、聚富小、望来小、浜益小）への学校司書の派遣開始により、全小学校の人的体制整備が完了しました。また、学校司書配置校（７校）では、学校図書館と市民図書館のネットワーク環境を活用し、学校で市民図書館の蔵書を検索し、取り寄せることが可能です。さらに、平成 30 年度は学校司書を１人増員し、中学校への学校司書の巡回派遣を開始しました。

分析評価・方向性　小学校では学校司書の配置・派遣により蔵書管理や図書館内の装飾など環境整備が進み、図書の貸出点数が伸びています。中学校にも１人学校司書を巡回配置し、蔵書の整備が行われました。引き続き子どもたちが利用したくなる学校図書館づくりに取り組むとともに、学校司書や学校図書館の活用について教員の理解促進に努めます。さらに、中学校においては、令和元年度からは２人体制で全校を巡回し、より一層の利用推進を図ります。

また、幼稚園や保育園などを対象に、布の絵本や布のおもちゃ、エプロンシアターやパネルシアターなど読み聞かせに有効な物品の紹介などを工夫します。

図書館司書による家庭への啓発活動では、おはなし会や本の展示などを通し、様々な本に触れてみたくなるきっかけづくりを行います。

（学校司書の資質向上）**（担当：市民図書館）**

取組状況　毎月１回学校司書連絡会議を開催し、学校に配置・派遣している学校司書と市民図書館司書との情報交換や連携などに関する協議を行っています。

また、学校司書のスキルアップを図るため、授業支援に関する研修を行いました。

分析評価・方向性　今後も計画的に研修を実施し、学校司書のスキルの維持、向上を図るとともに、学校司書や学校図書館を効果的に活用いただくよう、教員の理解促進に努めます。

=== 石狩市教育委員会外部評価委員会の意見（平成 29 年度の取組に対する意見） ==========

○（絵）本に触れることは感性を磨くうえで重要であり、現行の取組を充実させるとともに、ネットワーク化を幼・保（認定こども園等）・小・中にも拡大し、図書館司書による家庭への啓発活動が推進されることを望む。

==========

教育プラン基本構想　重点テーマ３　地域で育ち・学び・活きる教育

施策（大項目）３　学習の拠点としての図書館サービスの充実

●大項目のねらい

図書館は、社会の発展を縁の下で支える施設です。子どもから高齢者まで多くの人々に開かれた施設である図書館は、情報が溢れかえる現代社会においても、市民の人生を充実したものとするうえで、重要な役割を担っています。主体的に学び、活動しようとする人々の思いを受け止め、その実現を支援するため、生涯学習や地域文化の創造、郷土理解の重要な拠点として、市民図書館のサービスの充実を図ります。

中項目１　資料提供や情報発信を通じた生涯学習の支援

小項目

（情報提供機能の強化）**（担当：市民図書館）**

取組状況　レファレンスサービス（調べもの相談）をはじめ、北海道新聞記事データベース等や、国会図書館デジタル資料閲覧サービスの活用、無料Wi-Fi 環境の整備などにより、広く情報提供を行っています。また、レファレンスサービスの質の向上のため、司書研修を行いました。

分析評価・方向性レファレンスサービスについては、本館からの学校司書派遣体制の見直しを図り、レファレンス業務に携わる時間を確保したことにより、全体の受理件数及び、事項調査の受理件数が増加しました。また、平成29年度に引き続き、レファレンスサービスをはじめ、各種サービスについてテーマ毎にまとめたチラシを本館・分館等に設置・配布を行いました。

（友好図書館）**（担当：市民図書館）**

取組状況　宮城県名取市、石川県輪島市、沖縄県恩納村と協定を結んでいる２市１村のうち、石川県の輪島市立図書館で石狩市郷土研究会事務局長を講師に北前船に関する講演を行い、宮城県の名取市図書館では、新名取市図書館開館記念式典及び記念講演会に参加しました。また、互いのまちに関する資料の交換を継続しています。

分析評価・方向性　２市１村との友好図書館と、互いの活動の一層の発展を目指し、今後も引き続き、人的交流や地域資料等の交換などを行います。

中項目２　市民の誰もが利用できるような環境の整備**（担当：市民図書館）**

指標の名称	単位	ﾌﾟﾗﾝ掲載実績	参考値				実績値	目標値
		(H25)	(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	H30	R01
石狩市の人口に占める利用登録者の割合	%	20.4	19.3	18.8	18.1	17.5	16.4	25.0

分析評価・方向性　市民の登録割合の減少が続いています。平成 29 年 10 月に実施した市民アンケートにおいて、図書館に来館する目的として、主に「本やＣＤの利用」「リサイクルコーナー活用」「野菜等購入」「イベント参加」などの回答を得、また、図書館利用の理由としては、「本の種類の多さ」「本の探しやすさ」「雰囲気の良さ」の回答を得ています。この結果を踏まえ、蔵書の充実や施設の良好な環境整備など、適切な対応に努めます。

登録者数が減少している要因として、市民アンケートによると、「歳をとって、行くのが大変になった」「本を読まなくなった」など、個人の変化のみならず、当館が図書貸出点数を制限していないため、利用者が自分以外の家族の本も借りていく割合が一定数あることが原因と考えています。

また、貸出点数、本館入館者数の減は、昨年の地震の影響によるものが大きいと考えています。今後はアンケートで得た市民図書館の良さについてＰＲ方法を工夫します。

市民図書館の利用状況等（花川南、八幡、浜益分館、あいかぜ※含む。）

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
利用登録者数(人)	22,790	21,617	21,072	20,219	19,501	18,508
蔵書点数（点）	306,133	314,864	323,528	322,840	324,178	325,766
貸出点数（点）	555,139	565,456	569,406	556,395	556,906	543,969

※平成 24 年 11 月に厚田分館を廃止し、12 月より厚田小学校図書館を地域開放型図書館「あいかぜとしょかん」として地域に開放している。本表には同館の実績を含めて記載。

小項目

（来館が困難な方へのサービスの充実）**（担当：市民図書館）**

取組状況　市内のイベント会場等へ出向いて貸出を行う「出張貸出」を行いました。また、市内５箇所に返却ポストを設置し、図書館に来館しなくても本を返却できる環境を整備しています。

分析評価・方向性　各種手法により取組を進めていますが、市民ニーズ等を検証しながら利用者の利便性の向上に努めます。

また、市民図書館の各分館の役割について、設置地域の利用傾向等を踏まえた蔵書構成など、各地域のニーズに合わせた運営を推進します。

中項目３　サービスを支える基盤の整備

小項目

（市民協働による事業展開）**（担当：市民図書館）**

取組状況　市民やボランティア、関係団体等との協働により、読書活動を推進する事業を継続的に行ったほか、市民同士の交流拠点として、まちの賑わいづくりを推進する事業を行いました。

市民協働で実施した事業への参加者数

事　業　名	参　加　者　数
ボランティアによるおはなし会	全 52 回、949 人（H29：全 57 回開催、806 人）
ボランティアによる DVD 上映会	全 12 回、149 人（H29：全 12 回開催、188 人）
石狩の古老に話を聞く会：全６回開催	151 人（H29：全 5 回開催、112 人）
第 19 回図書館まつり	5,159 人（H29：4,966 人）
第 8 回科学の祭典 in 石狩	1,200 人（H29：1,900 人）

分析評価・方向性　市民ニーズの把握においても、市民との協働は重要であることから、今後も継続的に市民協働による取組を推進するとともに、多くの市民の学びや各種の活動、交流の拠点となるべく、取り組む事業について積極的にＰＲします。

中項目４　利用者の期待に応える蔵書・情報源の構築（担当：市民図書館）

指標の名称	単位	ﾌﾟﾗﾝ掲載実績	参考値				実績値	目標値
		(H25)	(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	H30	R01
市民図書館（本館）の入館者数	人	261,324	236,177	246,199	241,902	240,355	236,080	300,000
当該年度に受け入れた寄贈資料点数	点	1,677	2,520	2,552	2,481	2,445	2,100	3,000
地域行政資料の点数	点	27,625	28,314	29,181	29,581	30,223	31,024	35,000

分析評価・方向性　入館者数は 24 万人前後と横ばいの状態を維持してきましたが、平成 30 年度の減少は、地震の影響によるものと考えています。

寄贈資料の受入点数は微減であるが、地域資料に関しては増加しています。今後も新刊図書の受入や適切な除籍による魅力ある蔵書づくりに加え、特集コーナーでの積極的な資料提供や講座の開催など、利用促進を図ります。

また、地域行政資料による歴史の継承及び地元の動きを伝える情報の発信は、図書館の大きな役割であることから、継続的に収集、保存、提供するとともに、より活用されるよう特集展示を行うなど資料のＰＲに努めます。さらに地域行政資料は地元で作成・配布されるものが多く、また、古い資料は収集が難しいことから、寄贈受入により丁寧に収集し、蔵書の充実を図ります。

小項目

年度毎の資料受入状況

区　分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
当該年度に受け入れた資料（点）	19,901	11,909	11,391	10,848	10,703	10,817
内、地域行政資料（点）	1,309	855	934	647	852	882

（魅力的な蔵書・情報源の構築、地域行政資料の充実）（担当：市民図書館）

取組状況　継続的な新刊図書の購入のほか、雑誌スポンサーからの寄贈雑誌の受入、リクエストサービスによる利用者ニーズの反映などにより、蔵書の充実を図るとともに、開館から 17 年が経過し、収容可能点数の限界に近づいている一方で、情報が古くなり提供に適さない資料が増えていることから、平成 28 年度から受入点数と同程度の除籍を始めました。（平成 30 年度 9,229 点）

また、市の施策や市内で行われている様々な活動などの情報発信を行う「石狩市情報コーナー」の常設や、地域の変わりゆく風景を撮影、記録する「ふるさと記録事業」など、地元の資料の収集・保存・提供に取り組んだほか、データベースの活用による新聞や雑誌の記事など、購入していない資料のデータについても、閲覧できる環境を整備しています。

分析評価・方向性　新刊図書の購入と除籍方針に基づいた計画的な除籍による蔵書の更新を継続的に行い、利用者が求める「魅力的な蔵書」「使える情報」の提供に努めます。また、雑誌スポンサーを増やすため、定期的に制度のＰＲを行うほか、蔵書以外にも提供可能な各種情報について、活用を促進するためのＰＲを行うとともに、地域行政資料については、特に子どものふるさと学習などを意識した収集・提供や、デジタル・アーカイブに関する情報収集を行います。

また、市民アンケートの結果でも図書館に来館する理由として本や雑誌、ＣＤの利用、リサイクルコーナー活用、野菜等購入、イベント参加など、市民が求めているニーズを意識し、ＰＲに努めます。

=== 石狩市教育委員会外部評価委員会の意見（平成 29 年度の取組に対する意見） ==========

〇「本を読む・借りる」以上の機能・サービスが図書館には今後一層求められる。
そして、その充実が利用者拡大につながる取組も検討されることを望む。

〇図書館の来館が困難な方への対応として、ネットワーク化による学校等の拠点施設を通したサービス提供の検討を望む。

==========

点検及び評価に対する学識経験者による意見について

点検及び評価の実施にあたっては、事業等の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性について、内部評価を行うと同時に、学識経験者の知見活用として、「石狩市教育委員会外部評価委員会」から意見や助言をいただくこととしています。

これらにより、点検及び評価の客観性を確保するとともに、いただいた意見等については、今後の施策、事業等の展開に活用していきます。

令和元年 10 月 1 日に外部評価委員会を開催し、次の意見等をいただきました。なお、会議録は、石狩市ホームページ等にて公開しています。

意見等の内容

外部評価委員会では、教育委員会の活動や、３つの重点テーマの 11 ある大項目に基づく施策に関する多くの取組について、評価をいただきました。

なお、本報告書においては、今後の本市教育行政へ参考となる視点や、課題に対する意見などについてのみ以下に掲載しています。

１　教育委員会の活動状況について

２　施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性

【重点テーマ１　自ら学ぶ意欲を育てる教育】

【重点テーマ２　思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育】

施策（大項目）１　豊かな人間性と感性を育む教育の推進

○豊かな感性を育むために、全ての子どもたちに多様なジャンルの活動（文化・芸術・スポーツ）に触れ、体験できる機会の充実を望む。

○図書館司書と学校司書の連携の強化等、現行の諸活動を充実させ、子どもたちの読書意識のすそ野を拡げる活動を期待する。

○スクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携し、いじめや不登校の早期発見（予兆の把握）と共通認識にもとづく迅速・丁寧な対応、保護者を含む当事者に寄り添う支援の強化を望む。

【重点テーマ３　地域で育ち・学び・活きる教育】

施策（大項目）３　学習の拠点としての図書館サービスの充実

○市民図書館の機能や現行のサービス（活動）を広く市民に知ってもらうための情報発信を継続されるとともに、「出張貸出」などの一層の充実を望む。

○「図書館のなかにまちをつくる」というコンセプトをもとに、「書籍」を媒体にした図書館利用以外の利用方法も見据えた取組を期待する。

全体を通して

○今後の教育プランの作成にあたっては、より実態にあった指標の設定を望む。

石狩市教育委員会外部評価委員会委員名簿

（平成 30 年度）

職　　名	ふりがな 氏　　名	任　　期	所　属　等
委員長	いい　　よしひと 伊井　　義人	平成 30 年４月１日から 令和３年３月 31 日まで	藤女子大学人間生活学部 人間生活学科　教授
副委員長	すずき　　しげる 鈴木　　茂		いしかり市民カレッジ 元教職員
委員	むかいだ　　くみ 向田　　久美		一般社団法人アクトスポーツプロジェクト　理事

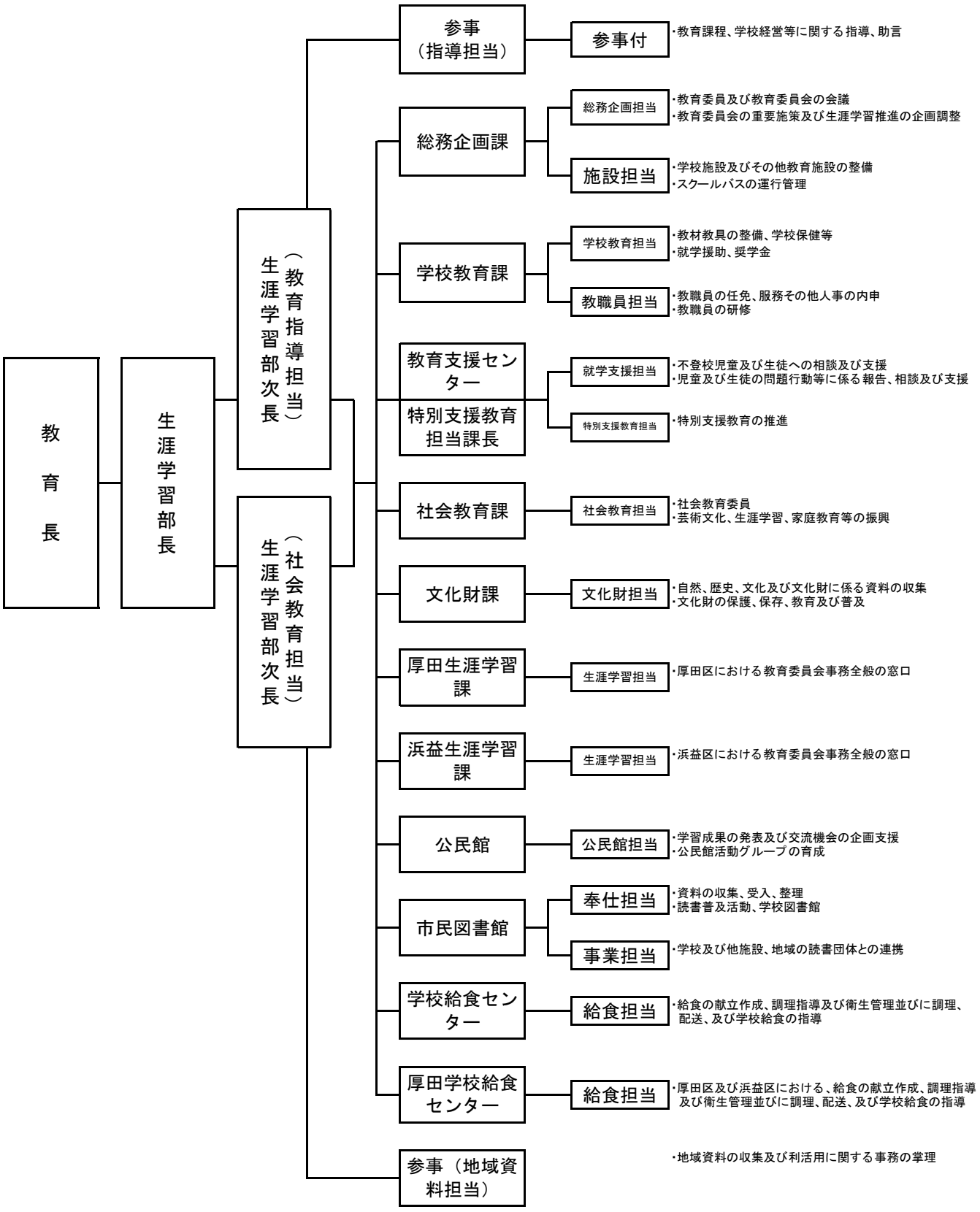
資料３

教育長及び教育委員会委員名簿

職　　名	ふりがな 氏　　名	就任年月日～任期の満了日
教育長	かまだ　　ひでのぶ 鎌田　　英暢	平成 24 年 10 月 12 日～令和元年 10 月 11 日【2 期目】

職　　名	ふりがな 氏　　名	就任年月日 （任期の満了日）	職　業
委　員 （教育長職務代理者）	もんま　　ふじこ 門馬　　冨士子	平成 22 年 12 月 25 日【3 期目】 （令和４年 12 月 24 日）	無　　職
委　員	まつお　　たくや 松尾　　拓也	平成 24 年 10 月 20 日【2 期目】 （令和２年 10 月 19 日）	会　社　役　員
委　員	やまもと　　ゆみこ 山本　　由美子	平成 25 年 10 月６日【2 期目】 （令和３年 10 月５日）	高等学校非常勤講師
委　員	あなみず　　ただし 穴水　　正	平成 30 年 9 月 21 日【1 期目】 （令和元年 10 月 19 日）	無　　職

資料４

教育委員会事務局組織図

（平成 30 年４月１日～平成 31 年３月 31 日現在）